

1、はじめに

フェニキア文化は紀元前1200年頃東地中海からはじまり、紀元前800年頃西地中海へ広がったと言われ、貿易を中心に栄え、鉄器時代における中心的役割を担った。フェニキアに関する出土遺物は多種多様であり、これまでそれらの資料を基に多くの研究がなされてきた。しかし、近年まで東地中海での発掘調査が不十分であったため、主に西地中海から出土した遺物を基に解釈され、研究対象が限られていた。東地中海での発掘も進んできた今、改めて東西の遺物を包括して分析する必要がある。本研究では、鉄器時代におけるフェニキアの仮面を東・西地中海の両地域から集めてカタログ化し再検討することで、その変遷と機能を研究し、フェニキア文化における東西の連続性と異同を捉えていきたいと思う。

2、フェニキア文化の定義

- ・時代、地域の定義：通説。

3、先行研究と問題点

- ・P.サンタの分類：タイプ から までの5つの分類と、奇怪様式・自然様式の分類。
- ・サンタ以降の研究：基本的にサンタの研究を踏襲。
- ・問題点： 型式学としての基準が不明確 型式と年代の問題を混同 新たに出土した仮面を含めて検討する必要性。

4、フェニキア式仮面の型式分類

- ・型式分類：タイプ a から g の7つに分類。
- ・分析：タイプ a、d 西。タイプ e、g 東。タイプ b、c、f 東西。
- ・考察：タイプ e の除外。タイプ a、b、c、d 奇怪様式。タイプ f、g 自然様式。西は奇怪様式、東は自然様式が多く出土。

5、フェニキア式仮面の機能

- ・奇怪様式の機能：通説と新たな可能性。
- ・分析： 出土地、 大きさ、 年代に着目し、検討。
- ・考察：奇怪様式は使用者の供養として使用。奇怪・自然様式における機能の差異。

6、結論

- ・フェニキア式仮面の東西における連続性及び異同。
- ・フェニキア文化における連続性及び異同。

主要参考文献

- A. マザール著、杉本智俊 / 牧野久実訳 2003 『聖書の世界の考古学』 リトン。
- Carter, J.B. 1987 "The Masks of Ortheia", *AJA* 91:355-383
- Cintas, P. 1946 *Amulettes puniques*, Tunis.
- Culican, W. 1975-1976 "Some Phoenician Masks and Other Terracottas", *Berytus* 24:47-87
- Isserlin, B.S.J. 1974 *Motya: A Phoenician and Carthaginian City in Sicily*, Leiden.

- Mendels, M.D. 2002 *The Akhziv Cemeteries*, Jerusalem.
- Moscatti, S. 1968 *The World of the Phoenicians*, London.
- Moscatti, S. 1988 *The Phoenicians*, Venice.
- Stern, E. 1976 "Phoenician Masks and Pendants", *PEQ* 108:109-118
- Stern, E. 1995 *Excavations at Dor*, Jerusalem.
- Stern, E. 2000 *Dor, ruler of the seas*, Jerusalem.

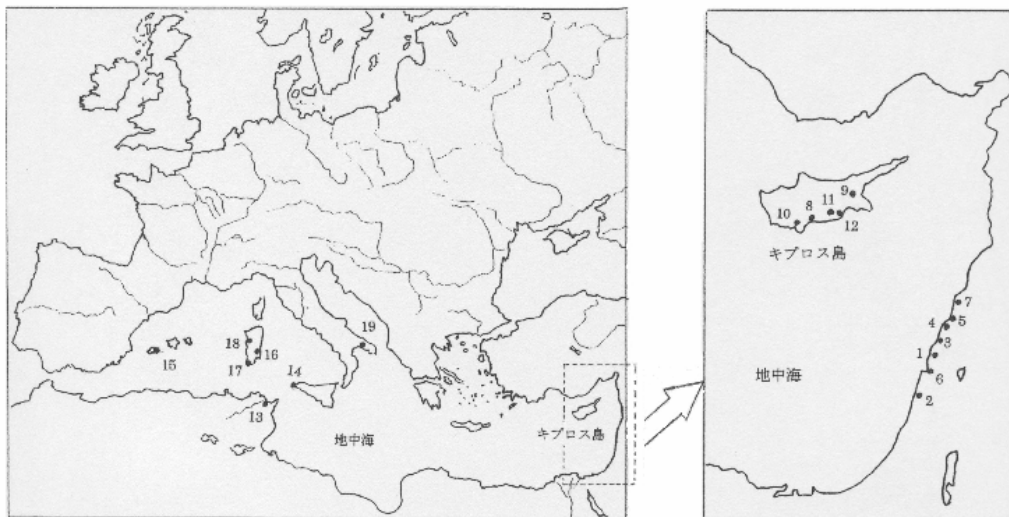


図1 フェニキア式仮面が出土した遺跡の分布

1:アクジブ 2:ドル 3:テノール 4:サレプタ 5:シドン 6:テル・アブ・ハワム 7:カルデ 8:アメイタス 9:エンコミ 10:クリオン
 11:キティオン 12:ラルナカ 13:カルタゴ 14:モテア 15:イビサ 16:サンスベレイト 17:スルキス 18:タロス 19:タラント



タイプⅠ タイプⅡ タイプⅢ タイプⅣ タイプⅤ

図2 サンタによる5つの分類



図3 7つの新たな分類

(a:サンタ P. 1946, fig.71 b:モスカーティ S. 1968, fig.73 c:サンタ P. 1946, fig.83 d:サンタ P. 1946, fig.86
 e:カーター J.B. 1987, fig.13 f:スターン E. 1976, fig.9 g:メンデルス M.D. 2002, fig.7.20)

表1 サンタによる5つの分類

	目	口	鼻	耳	ひげ	頭頂部	しわ	表情	年代	特記事項
タイプ	開	開(一方の端が上に傾いている)	歪み		なし			若々しい表情	前7~6	
タイプ	開(三日月形)	開(両端が上に傾いている)	鉤鼻		なし		額と頬に深く彫られた水平線のしわ	老人のような表情	前7~6	
タイプ	開	開(小)					口の周りに卵形のしわ		前7~6	タイプと類似しているが、それよりも小さい。
タイプ	閉(黒目が浮き出るように彫刻が施されている)					穴あり		しかめ面をしていない男	前7~6	顔の個々の部位を独立して作成。奉納や誓願の対象か。
タイプ	開(小さな円形)		歪み	動物の耳のようにとがっている	あり			シレノス	前5~4	他のタイプよりも新しい年代から出土。

= サンタの言及なし

表2 7つの新たな分類

	目	口	鼻	耳	ひげ	髪	しわ	額の紋様	輪郭	年代	特記事項
タイプa ()	開	開(一方の端が上に傾いている)	歪み	中	なし	なし	なし	円形や渦巻紋様	面長	前7~6	眉に水平の隆起
タイプb ()	開(三日月形に近い)	開(両端が上に傾いている)	直線的	大	なし	なし	額と頬に深く彫られた水平線のしわ(横じわ)	存在する場合はシンボリックな紋様	瓜実顔	東:前12~11or6 西:前7~6	なし
タイプc ()	開(三日月形に近い)	開(小)	小	小	なし	なし	口の周りに卵形のしわ(縦じわ)	なし	円形	東:前8~5 西:前7~6	タイプと似ているが、それよりも小さい
タイプd ()	開	閉	小	猫のような動物の耳	顎、口にもあり	頭頂部から額にまで及ぶ	なし	なし	ひげの形が顎の輪郭よりも大	前5~4	シレノスの顔
タイプe	開(アーモンド形)	閉	三角形(小)	中	なし(但し、黒色で塗られている場合あり)	なし(但し、黒色で塗られている場合あり)	なし	なし	卵形	後期青銅器時代	なし
タイプf	開	閉	直線的	中	顎、口にもあり(立体的に表現されている)	あり(立体的に表現されている)	なし	なし	卵形	前7~6	なし
タイプg	開	閉	三角形	中	なし	あり(後ろ髪は肩のあたりまである)	なし	存在する場合は円形紋様	顔の輪郭以上の大きさ	前9~8or7~6	女性
特徴	仮面は常に目が開いている	自然様式(e~g)は常に閉じている	aの特徴	dの特徴	dとiの特徴	iとgの特徴	bとcの特徴	主に奇怪様式に見られる	d、gの特徴		

表3 遺跡ごとの仮面の分布

東地中海地方							
	アクジブ	ドルティール	サレパタシ	シドン	テル・アブ・ハワム	カルデ	計
a							0
b		2					2
c	2						2
d							0
e		2			1	1	4
f	1		1	3	1		6
g	5						5

キプロス島						
	アメイタス	エンコミ	クリオン	キティオン	ラルナカ	計
a						0
b		2		1		3
c						0
d						0
e	1			1	2	4
f	3	1		2		7
g						0

西地中海地方								
	カルタゴ	モティア	イピサ	サンスペレイト	スルキス	タロス	タラント	計
a	2						1	3
b	4	1	1		1		3	10
c	3		2				1	6
d	1		1		1		2	5
e								0
f	1		1					2
g								0

表4-1 出土地と7つのタイプ

様式	タイプ	墓域		聖域		生活空間		計
		西	東	西	東	西	東	
奇怪	a	2						
	b	4	2	1(トフェトより)	1			
	c	2	2					
	d	3						
自然	f		5		4			3
	g		4					
	計	11	13	1	5			3

表4-2 大きさと7つのタイプ

様式	タイプ	10cm以下		11~15		16~18		19~21		22~25		計
		西	東	西	東	西	東	西	東	西	東	
奇怪	a								2			
	b			1	2	6		2				
	c				2							
	d							1		2		
自然	f		2		4			1				
	g				3			2				
	計		2	1	11	6	2	6		2		

ここからがぎりぎり被れる大きさ

比較的余裕を持って被れる大きさ

頭頂部から顎にかけて被ることができる大きさ

表4-3 年代と7つのタイプ

様式	タイプ	前12~10		前9~8		前7~6		前5~4		計
		西	東	西	東	西	東	西	東	
奇怪	a					3				
	b		4			9	1	1		
	c					2	6			
	d								5	
自然	f					1	12	1		
	g				3		2			
	計		4		3	15	21	7		